

徳島ペンクラブ通信

発行

徳島ペンクラブ

徳島市東沖洲2丁目1-13

徳島県教育印刷(株)内

TEL 088-664-6776

171号

平成27. 6. 15

27年度 定期総会

坂東正章会員が記念講演

新理事に船越、丁山さんら5人

徳島ペンクラブは、平成27年度定期総会を5月17日午前10時から、阿波観光ホテルで開いた。45人が出席。竹内菊世会長のあいさつ(別項)、新入会員の紹介に続いて、同会長を議長に議事を進め、前年度の事業報告、決算報告、ならびに監査報告があり、いずれも拍手で承認された。

この後、役員の変更に移った。今年は2年ごとの改選の年に当たっており、文学旅行関係などを担当されていた鳥羽俊明会長が、一身上の理由で理事・副会長を退任されたことなどの報告があり、副会長の4人制(従来は5人)のほか、長年監事を務められてきた船越淑子さんら5人の新理事、二橋満璃さんの監事、正木孝枝さんの事務局入りなど、執行部案が満場一致で了承された。引

県民文化祭参加イベント

11月21日(土)

き続き、続投の竹内会長を議長に、27年度の事業計画、同収支予算の提案があり、原案通り承認された。

席上、恒例の県民文化祭参加事業については、概要、前号でもお知らせしたとおり、ポルトガルの文人で、晩年は徳島で生涯を終えたモラエスを、その作品面から取り上げ、顕彰することが報告された。「モラエス文学の魅力」をテーマに、ファド(ポルトガルの民族歌謡)のコンサートや講演、作品の朗読で構成。開催日、会場は11月21日(土)、県立文学書道館。

最後に、記念講演があり、ペンクラブ会員で元心臓血管外科専門医の坂東正章さん(坂東ハートクリニック院長)が「三浦哲郎、山口洋子に



〔上〕坂東会員の「高血圧の話」に耳を傾ける一同
〔下〕懇親会では和やかに会話が弾む

みる高血圧との付き合い方」と題したお話(要旨は別項)を聞いた。大半が高齢者の私たちには、身近な問題で、貴重なミニ講座となった。総会の後は、席を移して飲食を共にしながらの懇親会。フィナーレは、96歳、木村義次会員の「せきぞろ」の歌と舞いで締められた。

本日は、ご出席くださいまして、まことにありがとうございます。本日は、ご出席くださいまして、「よかった」と思えるような運営をしていきたいと努力しておりますが、まずは、各種行事に参加して下さるご

が150名を切っていました。参加しなれば、希望を言うことも批判することもできない訳ですから。会員であつてよかつた、総会に参加してよかつたと思われ

会長あいさつ

超高齢化時代の中、自分の意思で自分の足で歩いて、目的の場所へ行く喜び、目的を持った場所がある喜び、志を持って活動することができ喜び、ペンクラブは、それらを皆様と共有できる場所でありたいと思います。徳島ペンクラブの会員でいて「よかつた」、総会に出席し願って、ごあいさつと致します。

皆様の力で、このペンクラブをもっともっと意義あるものに育て上げていけることを願って、ごあいさつと致します。

高血圧とのつきあい方

坂東会員の
講演要旨

三浦哲郎さん。うつ血性心不全で逝去。享年79歳。山口洋子さん。脳梗塞後の嚥下性肺炎で逝去。享年77歳。二人とも基礎に無治療の

高血圧があつた。

自覚症状がなければ問題はないと考える人が未だに多い。高血圧による症状が出現した時には命の灯火が消えかかっていることも多く、血圧上昇を指摘された場合にはきちんとした対応が必要だ。ちなみに「高血圧は放置しておいた方がよい」年齢+90がその人にとって適切な血圧」といった無責任で、学問的にも全く根拠のない方針を得々と述べ、かつ出版する医師がいる。教唆罪にもあたると私は思う。

血圧上昇を指摘された時には、本当に血圧が高いのかどうか正確に見極めること、血圧上昇に伴う臓器障害の有無を確認すること、実際に血圧が高ければまず食事と運動での血圧調整を行い、効果が不十分なら薬の助けを借りること。こういった方針で、信頼できるかかりつけ医と共に、血圧管理をされたらと思う。

徳島ペンクラブ27年度役員

(★は新任、順不同、敬称略)

顧問 山下博之▽参与 原田一美、木村喜美子、上野隆、岸積▽
会長 竹内菊世▽副会長 蔭山美紗子、田上倉平、鈴木綾子、西池
冬扇▽理事 安曇統太、上窪青樹、木村英昭、佐々木義登、辻本一
英、竹内紘子、福島誠淨 ★船越淑子★楠本邦利★杉田卓武★丁山
俊彦★萬宮千鶴子▽会計理事 上窪則子▽監事 新開英毅★二橋満
璃▽事務局 桂ゆたか、山崎純世★正木孝枝

鳥羽副会長退任のごあいさつ

この度、諸般の都合により、副会長を辞任することになりました。竹内会長様をはじめ徳島ペンクラブの皆様には大変お世話になりま

した。心よりお礼申し上げます。

会計役員を2年、副会長を4年務めさせていただきましたが、その間、会計処理、県民文化祭、春秋のペンクラブ旅行、三好市主催の富士正晴関係事業など、微力ながら精一杯務めさせていただきました。副会長在任中は、異業種の方々と交わることができ、本当に幸せでした。そして、今年は、念願の紀行文を1冊にまとめ、本当にいい思い出ができました。これもひとえに徳島ペンクラブの皆様や関係諸団体の皆様の温かいご支援のたまものと、今その喜びをかみしめております。

最後に、徳島ペンクラブのますますのご発展をお祈り致しますとともに、私も会員であることに誇りを持ち、これからも元気で頑張っていきたいと思っております。

ありがとうございます。

(2015・5・22)

富永館長(文学書道館)が講演・意見交換

ペンクラブ賞の発表と研修会

7月12日(日)阿波観光ホテル

延び延びになっていたペンクラブの研修会は、今年のペンクラブ賞の発表と表彰式をかねて、7月12日(日)午前10時30分から、徳島駅前阿波観光ホテルで開かれることになった。

研修会の中身は、まず選集32号の掲載作品から選んだペンクラブ賞受賞者と次点者の発表、続いて受賞者の表彰を行う。この後、文学書道館の館長で、元徳島新聞論説委員長、富永正志さんの講演を聞く。また、選集32号掲載作品についての意見交換などを予定。午後は、昼食を取りながら懇談する。会費は3000円(アルコール類は自前)。

雑感

われらが藍住町には徳島ペンクラブ発足当初から今日まで約五十年間も活躍されている三好昭一郎先生、小坂奇石を師に持ち、中国にもその名の知れた書家の東南光先生等々、文人墨客が多士済々である。これらを糾合して十年前に藍住町文芸協会が発足し、毎年「あいずみ文芸」という文芸誌を出版している。この協会の頭

目が、これまた俳人橋本夢道の研究では第一人者と言われる漆原伯夫先生である。協会の運営に携わるのは漆原会長以下十人余りの役員なのだが、不肖、私もその末席を汚している。この中に、近い将来全国区に打って出るであろう気鋭の女流歌人がいる。彼女の名は山本枝里子と言ひ、もうすでに十年ほど前にはあの中城ふみ子賞を受賞しており、歌集も二冊出版している。

彼女は佐佐木信綱の創刊になる歌誌「心の花」に属しているのだが、この度、彼女が中心となって「心の花」徳島歌会を発足させるという。その発足会に若山牧水記念文学館館長で「心の花」の選者伊藤一彦先生が来県し、記念講演会をしてくださる。だから頭数が

必要なのと彼女が哀願する。ならば枯れ木も山の賑わいと門外漢ばかりの役員六人が員数合わせに出席した。

伊藤先生は講演の中で
・歌を作ることは、歌の神様に自分の心をカウンセリングしてもらおうなものだ
・ありふれた出来事をとらえるのは自分の心であり、生き方から歌が生まれる

「か」と「く」

安曇 統太

表すには、言葉を学ぶことだ。「のむ」という言葉一つをとっても、「飲」は液体をのむ、「呑」は丸ごとのむ、「嚙」は一口ずつのみ込むと、意味が変わる。そのようなことを話された。われわれ、十七音の「句」しか知らない者にとつて、三十一文字の「歌」は異界だと思つていたものだから、あまり関心も持たず、ただ枯れ木の一枝として座つていたのだが、平易な言葉で人を包み込むような雰囲気を持つ伊藤先生の講演を聞き進むにつれ、文字を扱う者として、心せねばならないことを幾つも教えられた。講演の後は、私にとつて初めての歌会、続いて伊藤先生を交えての懇親会と門外漢のぞいた歌の世界は新しい発見と刺激に満ち満ちていた。

平成26年度 徳島ペンクラブ事業報告

事業名	内 容	期 日 ・ 備 考
徳島ペンクラブ選集	年1回刊行しているもので、PART32号を発刊 特集 今、甦る野上彰 ペンクラブ賞 平成27年7月に発表	12月末発刊、送付 表彰式は 27年度7月予定の研修 会で
ペンクラブ通信	会員への通知、ニュース等 168～170号を発行	
とくしま随筆大賞	第15回 審査員は、徳島大学教授 依岡隆児氏 徳島新聞 生活文化部 撫養次長 竹内会長 大 賞 河野 勇「十五歳の志願兵」 準大賞 三輪 和「虫籠」 小川公三「ポンコツ」 佳 作 手束雅夫「『孫子の正月』のカルタ」 村上瑛一「光ほのかに」 崎本久枝「たいむ・とらべる」	表彰式 平成26年10月5日 ホテルグランドパレス 徳島にて 6月 第一次選考 副会長 7月10日 最終選考
文学旅行	秋 広島県（ふくやま文学館）兵庫県（姫路文学館） 春 愛媛県（松山東高校明教館、秋山兄弟生家、子規記念博物館、坊ちゃん列車、砥部焼の見学など）	11月9日 平成27年3月27日
理事・執行部会	理事会を毎月1回、原則第1土曜に開催	県民文化祭のための臨時招集会場の都合により変更もあり
主催事業	平成26年度徳島県民文化祭 分野別フェスティバル事業「今、甦る 野上彰」	11月23日 文学書道館にて
協賛・協力事業	「野上彰の会」発足 会長に竹内会長 事務局に丁山俊彦氏 三好市 富士正晴同人雑誌賞関係 第5回高校文芸誌賞 最優秀 岩手県立盛岡第四高等学校	徳島ペンクラブは 会長副会長等で 第2次選考を担当

平成26年度 収支決算

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

A 収入総額 2,751,954円
 B 支出総額 2,059,318円
 C 差引額 692,636円 (平成27年度へ繰越)

A 収入の部

科 目	決 算 額	予 算 額	内 訳
会 費 収 入	770,000	770,000	平成26年度会費 5,000円×154人=770,000円
負 担 金 収 入	790,000	800,000	ペンクラブ選集 PART32掲載料 532,000円 2頁 7,000円×60人=420,000円 3頁 10,500円×1人=10,500円 4頁 14,000円×3人=42,000円 5頁 17,500円×1人=17,500円 6頁 21,000円×2人=42,000円 会合出席者負担金 総会 6,000円×43=258,000円 新年会 0円
補 助 金 収 入	250,000	400,000	県民文化祭助成金 250,000円 富士正晴文芸誌賞 0円
寄 付 金 収 入	9,089	5,000	春秋の文学旅行寄付金 9,089円
雑 収 入	61,545	20,000	ペンクラブ選集売上代金 51,400円 阿波踊り讃歌売上代金 10,000円 利息 145円
未 収 金 収 納	5,000	5,000	前年度会費 5,000円
前年度繰越金	866,320	866,320	
計	2,751,945	2,866,320	

B 支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額	内 訳
事 業 費	1,104,714	1,130,000	ペンクラブ選集印刷代 807,600円 ペンクラブ通信No.168～170号 99,360円 徳島随筆大賞関係 116,072円 研修会その他 81,682円
通 信 費	218,851	410,000	事務局 41,670円 選集31号発送費 68,256円 ペンクラブ通信発送費 60,641円 その他通信費 48,284円
会 議 費	304,958	320,000	理事会・役員会他 46,958円 総会 258,000円 新年会 0円
諸 会 費	9,800	10,000	徳島市文化協会会費等 9,800円
慶 弔 費	3,000	20,000	出版文化賞 3,000円
事 務 費	17,868	20,000	事務用品(インク・用紙他) 17,868円
特別事業費	382,240	500,000	県民文化祭参加事業「今甦る野上彰」 382,240円
雑 費	17,887	40,000	振込手数料等 17,887円
予 備 費	0	416,400	0円
計	2,059,318	2,866,400	

平成26年度の収支決算について監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

平成27年4月13日

会計監査 新開英毅 (新開)
 会計監査 船越淑子 (船越)

平成27年度 徳島ペンクラブ事業計画

事業名	内 容	期 日 等
ペンクラブ選集 ペンクラブ通信	年1回刊行しているもので、 今年度はPART33号 特集 モラエス（予定） ペンクラブ賞1名・次点数名を選出する。 会員への通知、ニュース等	9月末締め切り 12月末 発行発送予定 同時にペンクラブ賞投票 年数回 必要に応じて 随時発行
とくしま随筆大賞	第16回 審査員は、徳島大学教授 依岡隆児氏 徳島新聞 生活文化部 撫養次長 竹内会長 (大賞、準大賞は作品をペンクラブ選集に掲載)	5月末メ切 審査6月～8月予定 表彰式 日程未定
文学旅行	1. 本年度より担当を交代制にする 2. 春秋2回にこだわらない 今秋は「高知文学館」(9月9日より宮尾登美子追悼展) を中心に予定。本年は鈴木副会長が担当	10月12日の予定。
研修、講演	講演とペンクラブ賞授賞式、懇親会などを兼ねて開催	7月予定
理事・執行部会	毎月第1土曜に開催 その他、必要に応じて理事会・執行部会を招集	基本的に定例毎月第一 土曜午前10時から文学 書道館にて
主催事業 特別事業 その他 協賛事業	平成27年度徳島県民文化祭分野別フェスティバル事業 モラエス作品の魅力に迫る」(仮称) 50周年記念誌発刊準備 昭和42(1967)年11月23日設立総会 平成29(2017年)年度内に発刊予定 県民文化祭後に出版準備のための編集委員会を設置 ホームページ(徳島ペンクラブで検索)の内容充実 バレエや浄瑠璃とのコラボも検討 その他、理事会で協議し、必要と認めた事業の実施、支 援・後援・共催事業などを行う。 三好市 富士正晴同人雑誌賞関係 第6回高校文芸誌賞への協力(選考委員など)	県の承認を得た後理事 会で内容等を検討し、 9月頃には具体的に決 定。開催日は11月21日 (土)に決定済み

選集の負担金について

会員負担金 2ページ(原稿用紙5枚2000字まで) 7000円
追加1ページ(原稿用紙2.5枚1000字以内)につき2000円

配布数 会員 1部 会員執筆者 3部
追加分 1部千円にて販売 ※会員外の販売は原則定価(書店売りと同じ1500円)

※掲載料が高いという指摘を再々いただいておりますが、依頼原稿への謝礼や郵送費等もあり、なかなか財政は厳しいのが現状です。当面は現状で運営してまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成27年度 収支予算

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

A 収入総額	2,445,700円
B 支出総額	2,445,700円
C 差引額	0円

A 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
会 費 収 入	745,000	770,000	平成27年度会費 5,000円×149人 = 745,000円
負 担 金 収 入	720,000	800,000	ペン選集 part33掲載料 560,000円 会合出席者負担金 総会 4000×40 = 160,000円
補 助 金 収 入	250,000	400,000	県民文化祭助成金 250,000円
寄 付 金 収 入	3,000	5,000	各種寄付金等 3,000円
雑 収 入	20,064	20,080	ペンクラブ選集等売上代金 20,000円 利息 64円
未 収 金 収 納	15,000	5,000	前年度会費 3名 15,000円
前年度繰越金	692,636	866,320	
計	2,445,700	2,866,400	

B 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
事 業 費	1,130,000	1,130,000	ペンクラブ選集印刷代 800,000円 ペンクラブ通信印刷代 100,000円 徳島随筆大賞賞金等 130,000円 講演会・研修会 100,000円
通 信 費	410,000	410,000	事務局 70,000円 総会案内・通信送料等 340,000円
会 議 費	260,000	320,000	理事会・役員会等 100,000円 総会 160,000円
諸 会 費	10,000	10,000	徳島市文化協会会費等
慶 弔 費	20,000	20,000	
事 務 費	20,000	20,000	事務用品代他
特別事業費	350,000	500,000	県民文化祭参加事業「モラエス文学の魅力」 350,000円
雑 費	40,000	40,000	振込手数料等
予 備 費	205,700	416,400	
計	2,445,700	2,866,400	

※各科目間の流用を認める

「選集」33号の原稿募集

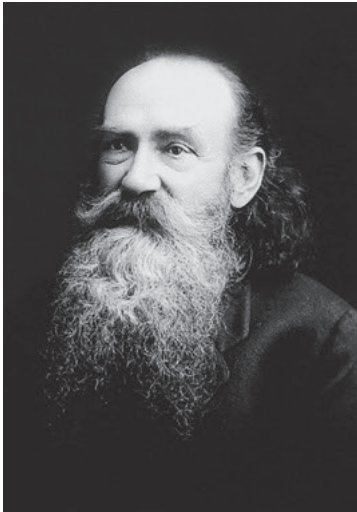
今年も「徳島ペンクラブ選集」パート33（12月下旬発行予定）の原稿を次の要領で募集します。原稿が集まらなければ、「選集」は発行できません。特集、一般原稿とも多くの会員からのご寄稿をお待ちしています。

特集

ポルトガルの文人で、晩年は徳島市で過ごし、75歳の生涯をこの地で孤独のうちに終えたモラエスを取り上げます。ペンクラブの県民文化祭参加イベント「モラエス文学の魅力」に呼応して、「選集」では、モラエスの作品を中心に、いろんな角度からこの偉大な文人を顕彰したいと思います。皆さんからのアイデアもお待ちしています。

●原稿 2000字または4000字。写真、イラスト等入れる場合はその分、文章を短く。企画段階、あるいは書き始める前に編集担当（田上）まで、ご連絡ください。

●一般作品 従来どおり。随筆は2ページ分、2000字。短歌、俳句等は2ページ分、10首。詩、連句は2ページ分。



ヴェンセスラウ・デ・モラエス

掲載料 一部、変更

になりました。一般作品は2ページ分7000円、追加1ページ2000円。特集も会員外の方に依頼の場合や特例を除き、一般作品の掲載

料に準じます。掲載料は、翌年1月末に郵便口座引き落とし、または郵便為替で徴収します。

●原稿の締め切り 一般作品は9月末、特集は10月20日とします。

●原稿の送り先・お問い合わせ

〒770-18074 徳島市八万町下福万128-28 田上倉平宛
(電)088-668-3563) E-mail: jonan@mc.pikara.ne.jp
※原稿のご送付に当たっては、安全のため必ずコピーあるいは、控えを保存しておいてください。

モラエスの略歴・著書等

(ヴェンセスラウ・デ・モラエス)

1854年にポルトガルの首都リスボンに生まれ、海軍兵学校を卒業後、ポルトガル海軍士官として奉職。1888年、ポルトガル領マカオに赴任。1889年に初めて来日。この年、中国女性とイギリス人の混血児、アツチャン 亜珍と同棲、2児を得るも、後に別れる。1891年、マカオ港務局副司令を経て、外交官となる。1899年、日本に初めてポルトガル領事館が開設されると在神戸副領事として赴任、のち総領事となり、1913年まで勤めた。

モラエスは1902年から1913年まで、ポルト市の著名な新聞「コメルシオ・ド・ポルト（ポルト商業新聞）」に当時の日本の政治外交から文芸まで細かく紹介しており、それらを収録した書籍『Cartas do Japao（日本通信）』全6冊が刊行された。

神戸在勤中に芸者おヨネ（本名は福本ヨネ）と出会い、ともに暮らすようになる。1912年にヨネが死没すると、翌1913年に職を辞し引退。ヨネの故郷である徳島市に移住した。ヨネの姪である斎藤コハルと伊賀町3丁目に住むが、コハルにも先立たれる。

徳島での生活は必ずしも楽ではなく、スパイの嫌疑をかけられたり、「西洋こじき」とさげすまれることもあったと伝えられる。1929年、徳島市で孤独の内に没した。

7月1日、死亡。前夜、ブランデーを飲み泥酔。翌朝、水を飲むとして、土間の水道のところへ行こうとしたらしく、土間に転落、脳震とうを起こして絶命。翌朝、隣人によってその死が発見された。遺書により、葬儀は仏式で行われ、ヨネとコハルの墓のある潮音寺墓地に葬られた。蔵書などの遺品は、遺書によって、県立光慶図書館に贈られ、「モラエス文庫」として保存された。その文庫も1945年の空襲で消失した。

1935年7月1日、徳島市で盛大な七回忌追悼法要が営まれ、「藻光院扁窓文献大居士」の戒名が贈られた。追悼法要の記念出版物として、花野富蔵訳「日本精神」(第一書房)が出版された。

著書は多数あるが、生前には、ポルトガル語で書かれていることもあり、日本ではほとんど注目されることがなかった。死後、花野富蔵、岡村多希子の両氏らによって日本語に翻訳され、相次ぎ出版された。昭和初期の風潮もあり、日本賛美として取り上げられるようになった。

主なものを挙げると、「大日本 歴史芸術茶道」(帝国教育会出版)「徳島の盆踊り」(講談社学術文庫)「おヨネとコハル」(集英社、彩流社)「日本精神」(第一書房)「日本夜話」(第一書房)「極東遊記」(中央公論社)など。関連書籍には、「明治文学全集 第49」(筑摩書房)「日本現代文学全集第15外国人文学集」(講談社)「定本モラエス全集全5巻」(集英社)「モラエスの絵葉書書簡 日本発、ポルトガルの妹へ」(彩流社)「ポルトガルの友へ モラエスの手紙」(彩流社)など。

※モラエスの略歴・著書等は「おヨネとコハル・徳島の盆踊(抄)」(花野富蔵訳)やインターネットのモラエスの項を参照、まとめた。

★モラエス館の資料、徳大とアミコで

徳島市が眉山山頂で運営していたモラエス館は、3月末で閉館となった。収蔵されていた資料は現在、徳島大学常三島キャンパスと徳島駅前のアミコビル1階で展示されている。両会場での展示は、新しい常設展示場となる眉山山頂展望休憩施設の改修が終わる2016年10月ごろまで続けられる予定。

“文学の里”松山の印象強く 藩校・明教館や坊ちゃん列車



愛媛県立松山東高校・明教館の大広間で記念撮影

ペンクラブ春の文学旅行

徳島ペンクラブ恒例の春の文学旅行、今年例年より半月ほど早く、3月27日、43人が文学の里・松山に遊んだ。最初に訪れたのは、松山東高校の一角にある江戸時代の藩校、明教館。校舎の裏側には漱石と子規の句碑が並んで立っていた。百八畳の広間の四方には、同校出身者ゆかりの肖像画や写真が掲げられ、文

学の町松山、俳句王国松山の印象を強くした。

道後温泉の老舗「ふなや」で昼食の後は、2班に分かれて、「坊ちゃん列車」に乗車したり、秋山好古、真之兄弟の生家を訪れ、ボランティアガイドによる「秋山兄弟の生涯」に耳を傾けた。最後に、偉大な詩人、坂村真民記念館と砥部焼伝統産業会館を見学、帰路についた。(文学旅行の詳細は12月末発行予定の「選集」33号に掲載します)

目玉は宮尾登美子さん

企画展や対談を見学

少し早いですが、秋の文学旅行の概要をお知らせする。行き先は高知市で、日程は10月12日(月、振り替え休日)。午前7時

30分、貸し切りバスで徳島駅前を出発、高知県立文学館―寺田寅彦記念館―高知城ホール（昼食）―高知RKCホール―徳島駅前19時ころ帰着予定。会費は10,000円。

今回の目玉は、昨年末12月30日に亡くなられた宮尾登美子さん（写真）。その宮尾さんを追悼する特別企画展が高知県立文学館で（9月19日から）開かれており、これを見学。さらに、この日、同文学館が主催して高知RKCホールで開催の、宮尾登美子さんをしのぶ「山本一力さん&檀ふみさん」の対談を拝聴する。

このほか、文学館から歩いて5分の寺田寅彦記念館を訪れる。寅彦が4歳から19歳まで住んでいた旧家。寅彦の随筆には、多感な少年時代を過ごした旧家周辺にまつわるものが多く、見ごたえがありそう。



これまで文学旅行担当だった鳥羽副会長の退任で、今回は鈴木綾子副会長が企画した。鈴木さんは「企画展もそうですが、ちょうどこの日、対談の日と重なり、ラッキーでした。多数の方のご参加を期待しています」

会員短信

★佐野泰臣さん 漢文一筋、「ものぐさ漢文88」「漢文百話」など、ささほど「生涯10冊の本出版」を果たされた佐野さん。今回、泰山先生雑纂録（中巻）「阿波徳島の漢詩人名詩百選《古人篇》」（四六判、

109ページ）「写真」を、徳島県教育印刷から出版した。佐野さんは「今まで詠んだ多くの徳島の漢詩人の詩から撰者の胸奥に響き感銘した詩を名詩として、取り上げた」と話している。定価1500円。

新入会員

（敬称略、カッコ内は推薦人）

住友 京子 〒770-0856 徳島市中洲町3丁目46-4

「小学校5年生の作文レベルでまいます」（竹内会長）

田中津美子 〒779-4401 美馬郡つるぎ町半田字中藪28

7-1

「これまで短歌をやっていましたが、宮田憲治さんのお勧めもあって、随筆も始めようかと、入会しました」（鳥羽前副会長）

木内ミユキ 〒775-0001 海部郡牟岐町河内189

（竹内会長）

訃報

田村 善伴さん（名西郡石井町石井字石井） 5月15

日、入院先の病院で肺炎のため死去。83歳。なんと俳句会同人、俳人協会、万象俳句会同人。著書に、俳句と随筆集の「急ぐべからず」「冬帽子」がある。

編集後記

元徳島ペンクラブ会員で、「阿波の歴史を小説にする会」会長の林啓介さんが4月26日お亡くなりになった。友人の蔭山美紗子さんから一報を受けたときは、とにかくは信じがたい心境だった。編集つ子が、県の情報誌「いのち輝く」に携わっていたところからのお知り合いで、板東俘虜収容所関連の取材では、その造詣の深さに感銘を受けたものだ。その林さんが、生前、情熱を持って取り組まれていたとお聞きする同会の「35周年記念講演会」が、過日徳島市シビックセンターであった。内容も、徳島ではまず聞かれない興味深いお話で大満足だったが、残された会員が故人の意思を受け継いで頑張る姿に感動を覚えた。林さんのニンマリ微笑む姿が目浮かぶようだ。（倉）

泰山先生雑纂録（中巻）

阿波徳島の漢詩人名詩 一〇〇撰（古人篇）

（附録 阿波徳島の漢文筆名詩一覽）

佐野泰臣 泰山 撰